

令和元年度 沖縄県振興審議会
第4回文化観光スポーツ部会 議事要旨

令和元年10月29日(火) 15:00~17:00

議題

【沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)当総点検報告書(素案) 第3章 基本施策の推進による成果と課題及びその対策(文化観光スポーツ部会関連)】について

【佐久本専門委員】

- 空手振興課ができて、沖縄空手振興ビジョン・ロードマップが整理されている。ただ、これをどのようにして機能させていくのかという部分が少し見にくい。3つのキーワード、伝統空手の「保存・継承」、「普及・啓発」「振興・発展」と、沖縄の産業とも抱き合わせしながら、県民が一体となって空手を盛り上げていこうという話は、お互いの中ではある程度理解はしていると思う。ただ、形としてお互いがどう動いていくのかという部分が少し見えてこない。
- イベントの持ち方に工夫が必要になっていると感じる。例えば空手オンリーなのか、全員が空手のプロではなく、健康のためにやっていच्छる方もおれば、沖縄の文化、その他の文化も含めて魅力を感じて沖縄にいच्छる方も空手界の中にはいる。だから、みんなで楽しめる、参加型のイベント、今までも県立武道館で演武会をしても、自分たちの子どもが終わったら親は帰ってしまっている。そういう意味では、本当に楽しい参加型のイベントが必要と思う。
- 来年には第2滑走路ができる。フランクフルトまでオーストリア、スイス、オランダ、フランスからだとも1時間で飛びます。ここを拠点にして、ダイレクトでこちらに来れば、27時間で飛んで来れる。交通機関をうまく有効活用しながら、もっと世界にアピールできるようになる。
- 空手を愛好している人たちの中には、いろいろなジャンルの方々がいる。例えば、植物に興味を持っている人、食文化に興味を持っている人もいる。空手をベースうまくやると、おもしろいことが起こると思う。見る空手もあるが、リピーターを増やすには、魅力のある空手でなければ、また来たいとならない。

【ダルズ専門委員】

- 資料14の9ページに「沖縄空手の次世代を担う指導者・後継者の育成を図り」とあるが、それより重要なのは一般空手家の人口増加。弟子がいらないと指導者はいらぬ。空手は人気ないのか、道場には人は少ないのか。リサーチして対処する必要がある。沖縄に道場は400ぐらいある。オーストラリアの田舎、小さな町に道場が3つ、4つあってうまくいっている。何が問題なのか、それを検証すべき。

- 空手案内センターは、海外向けの皆さんのために設置された組織と思われるのか、県民の理解度・認知度が少ないのか、空手家も含めて案内センターにほとんど来ない。だから、もっと空手界との連携、ネットワークを作る必要がある。
- 空手には色々なニーズがあると思うが、セミナーやイベントの持ち方も含め、誰のために、空手に何を求めているかをもっとリサーチすべき。ただ、イベントをやるのではなくて、空手家以外の一般県民にも見てほしい。演武の持ち方や何を見せるか、もっと検討すべき。これと関係して、空手ツーリズムも最近は大流行で、いろいろな企業がいろいろな商品を考えているけど、現状は全くうまくいっていない。
- 愛好者は一般県民みんな愛好者だと思うので、その一般県民の興味をもっと引くような方策、方法を考えていくべきではないかなと。空手のイベントに自分の親戚が出ない限りは行かない。観光客も来ない。もっとイベントの持ち方をいろいろな提案をしてもいい。極真系の大会はテレビ放送もある。沖縄空手の大会テレビ放送は聞いたことない、見たこともないです。そのアイデアがないのか、恥ずかしいからやらないのか。それらをもっとサポートしてもいいのではないかなと。

【原田専門委員】

- 空手はオリンピックの種目にもなって、沖縄空手あるいはスポーツとしての空手がかなり明確になってきた。今スポーツ庁でも武道ツーリズムの振興というものを一押しでやっています。次年度に向けて武道ツーリズムを推進する機構をつくらうと。オールジャパンで武道ツーリズムを盛んにしようとしている。
- ただ、武道ツーリズムといっても非常に幅が広くて、漢字の「武道」とアルファベットの「B U D O U」、漢字の武道は精神世界の卓越した技術を見せる本物の武道、アルファベットは流鏑馬(やぶさめ)から日本泳法から、極端な話、忍者まで入れてしまい、結構広い入れ物をつくっています。
- 例えば村山市がやっている剣道のツーリズムは、完全に半日・1日コースで1万2,000円から4万円と商品化しています。剣道の場合は、武具が非常に日本文化の結晶したような美しいものを織り込んだ模様、武具の見学も入っている。刀の歴史も学ぶというように、剣道を取り巻く全ての文化を1つの商品パッケージにしている、空手も可能性があるだけに動きが少し見えてこないのが今後の課題だと感じる。
- 怒られるかもしれませんが、空手をベースにいろいろな武術に日本人が羽ばたいていって、1億円稼いだ、2億円の賞金取ったなど、でもベースは空手でまた戻ってくる。それを見た子どもたちがそういう世界に憧れて、空手から入っていく、そういった社会過程が目に見えてくれば、裾野もぐっと広がる。例えば今シンガポールをベースにしているONEチャンピオンシップは大成功している。基本的なフィロソフィーは単なる殴り合いではなく武道で「礼に始まって礼に終わる」。でも、すごい華やかな世界でやる。そういったおもしろいものもありますので、いろいろな視点から空手の未来を考えていけたらいいなと思います。

【下地部会長】

- 武道ツーリズムというのは最近本当に注目されていて全国で取り組んでいるところですので、沖縄で言う空手ツーリズムの振興というものを、空手振興課と観光振興課の連携も必要ではないかと思えます。空手ツーリズム的な指標も少し加えていくといいと思えます。

【東専門委員】

- 東会長にお聞きしたいのですが、情報発信という意味においては今のリゾテックの中でも、その空手のIT等の相性が強いと思えます。ITで空手の産業化をどう支援するかということもあると思えますけれども、もし何かコメントがあれば。（下地部会長コ）
- 沖縄映像センターの取組で映像コンテンツは結構あると思う。今はコンテンツをどう発信するか、チューバーやインフルエンサーをどう捕まえるか。また、今はどの国で、いつごろ「空手」と入力されているのかをデータで取ることができる。そうすると、1年の中で何時頃スペインで空手と検索されているのか、そういうデータを取ることで、タイムリーに発信することが重要ではないかなと思えます。
- 空手に限らず、我々も今、会社で沖縄レンタカーが、どの国でいつごろ検索キーワードが大きくなるのかを、年間でデータを取っていて、いつごろプロモーションをかけたいということがわかる。ちょっとリゾテックまではいってないですけども、そういう発信先の技術的なものは専門家がいますので、それは検討に値すると思えます。

【下地部会長】

- グーグルなどで検索を少し検証すると、空手というのは世界から結構多く検索をされている。そういったところを分析しながら、そこにどう発信をしていくのか。世界に向けてどのように、誰に向けて、どう発信していくのかということが、紙ベース、写真ベース、動画ベースの組み合わせというところの発信力が今非常に問われる。あとは解説。知らない人、知っている人それぞれに向けての発信というものの強化が必要かなと思えます。

【平田副部会長】

- 空手振興課という課が生まれたということは、県の方針として文化振興課や交流推進課等々と同じような形での課が存在するように、それ自体がすごいことだと思います。行政のよさというのは仕組みが作られることなので、その仕組みはきちんと動いていくということが、やはり行政の仕組みづくりの強みというのはそういうことだと思います。
- ですから、空手振興課という設置がされたメリットというのを大いに発揮できる環境に今ある中で、21世紀ビジョンの新しい次の計画の中に、10年前とは違うアクションプランがもっと入ってきてもおかしくないのではないかと。どれぐらいの空手専門の職員がこの間ストックされてきたのか、非常に重要なポイントだなと思っています。

- 佐久本先生の話、それからミゲールさんの話を聞いても思うわけですが、なぜ空手産業が必要かという、空手の世界だけで自主財源をいかにつくれるかということを考えないといけないと思います。要するに、県からお金が出る限り、国からお金が出る限り守られているようなものではなくて、自分たちの持っているもので、足で立って立てるような産業までつくって、それで生まれた自主財源の予算を使って自分たちがやりたい空手を振興していく、あるいは普及していくことをやるための関連産業だと。
- 一方で、bjリーグをはじめとするバスケットボールというのは、今はもうビジネスモデルとしてあるわけですけど、あれも「バスケットボール産業」とは言わない。バスケットボール関連産業というふうに関連産業。つまり、バスケットボールのルールは全然変えてない。周りでいかにエンターテインメントできるかということ、みんなで考えてつくる産業だと思います。
- これは文化も一緒です。変えてならないものは、変えてはならないものとありながらも、周りでどうそれをいい意味でいば遊んでいくかということが観光関係とのつながりになってくると思います。ですから、「空手産業」と書くのがあれであれば、「空手関連産業」という表記の仕方を含めて検討されたらどうかと思います。
- 空手そのものの中にあるフィロソフィー、それこそ哲学性であったり、あるいは組踊でいうならば、300年前に玉城朝薫がつくったのは、組踊をつくったというよりは、新しい琉球の文化の様式をつくったということ。だから、新しい空手の様式をつくるんだ。スタイルをつくと。200年、300年後にそれは伝統と言われているんだ、国の宝なんだ、世界の宝だと言われるような取り組みをしたいという佐久本先生の今の発言だと思います。

【佐野専門委員】

- 空手の指導者を育てるとか、本当にコアな部分ですが、やはり空手サポーターを増やす。自分はやれないけど空手が好きという人を増やしていく。それがツアーリズムにもつながっていくと思いますけれども、そういう機会が広がっていくとありがたいなと思っています。
- 私どもの研修員も、うちのスタッフに空手をやっている人がいるので、お昼休みにゆったりとかして、彼らが例えばアフリカに戻ったときに沖縄空手をそのまま続けることはできないのだけれども、沖縄空手の持つよさ、特に普通のスポーツでも言葉を超えてわかり合えたり、ルールを学ぶという大事さがわかる。沖縄空手の非常にいい中身があるので、そういう沖縄の空手、あるいは沖縄のサポーターになるというところで非常に重要な文化だと思っています。

【大城専門員】

- 素案の361ページ(3行目)に、「文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため」とあります。本県の場合、それに照らしてみますと、国内外で沖縄芸能の歌舞団が派遣され

る件数に比べて、国内外の芸能・文化が本県で上演される回数が少ないように思います。交流というのは、人々や文物が互いに行き来することであるとするならば、つまり、例えてみるならば、肺で呼吸するように息を送り込み、送り出す働きがなければいけないと思いますね。

- 今、本県で海外で芸能する団体を派遣したりしているとののは、どうも交流ではなくて、むしろ沖縄の伝統芸能を紹介するということになりはしないかと思っています。つまり、片肺呼吸であってはいけないうらうと。沖縄からたくさん送り出して、沖縄の文化を理解してもらう。それはそれでいいことですが、交流という場合は、やはり片肺呼吸にならないように、文化交流のあり方を検討してみる必要がありはしないかと感じます。

【小島専門委員】

- 育成という意味で学校教育の中で子どもたち、せっかく沖縄はこれだけの文化があるので、学校教育の中で空手をもっと取り入れて必須科目というか、スポーツ空手なのか文化のほうかわからないのですが、たくさん子どもたちに指導をしていただけたら裾野が広がると思います。
- 子どもがやっているものに関しては親も見に行きますし、またその子どもたちの中からどんどん空手を担う人材が出てくればいいのかなと思います。また、海外からの学校交流の中で空手を見る機会を増やしていけば海外にも広がっていくので、ぜひその辺は、県の教育的な学校との相談も含めてやっていけたらよろしいのではないかと思います。

【下地部会長】

- これまでの議論もありますが、来年ツーリズム E X P O ジャパンが沖縄開催ということで、これまでの観光を振り返って今後の沖縄観光のあり方を議論する場にもなっています。世界的には、今回の大阪でも観光大臣会合等でサステナブルツーリズム的な部分、これは今沖縄でもいろいろな地域ごとに観光客の増加に伴う問題等も指摘をされておりますが、サステナブルツーリズムやレスポンシブルツーリズム、SDGsと、これまでこの計画をつくった段階ではあまり議論になっていなかった部分も出てきています。世界観光機関(U N W T O)の事務総長さんからは、来年沖縄でのツーリズム E X P O に関しては、ルーラーツーリズムとエコツーリズムをU N W T Oとしては中心に据えてお話をしていきたいと。
- これは、これまで世界的にも一部都市部に観光客が相当集中してきた、そういう流れから持続的な観光にするためにもう少し視点を変えたいという意向だと思います。まさにそういう意味では、沖縄で開催する意義というのも大きく出てきています。そのツーリズム E X P O は1つは目標がありますから、文化もスポーツも交流的な視点も盛り込んで、このE X P O に臨むことが大事ではないかと思っております。

以上